



不登校対策研修会

教師が頑張って教育するのは当たり前ですよ。それが仕事ですから。しかし、子どもが頑張って勉強するのは「当たり前」でしょうか？先生の頑張りについていけない子は「怠けているダメな子」なのではないでしょうか？



子どもの事例について熱く語る榎本氏

…この言葉にドキッとした方もいるのではないのでしょうか。5月16日(月)いのホールで行われた不登校対策研修会の様子をお伝えします。冒頭の言葉は、元のぞみ教室室長の榎本洋氏の講話から抜粋しました。

研修には、不登校担当者を中心に18名の参加がありました。

◇ 目的

のぞみ教室の取組を知ることで、不登校を未然に防ぐための一助とする。また、他校と交流することで、各学校の不登校対策に活かす。

◇ 所長挨拶より(抜粋)

令和3年度の30日以上長期欠席数は小学校16人、中学校35人でした。これは、千人当たりの不登校児童生徒数が小学校12.2人(全国8.3人)、中学校68.0人(全国39.4人)となり、全国を大幅に上回っています。不登校対策はいの町教育行政の喫緊の課題となっています。

◇ 講話

演題：いの町教育支援センターから見た不登校対策
「不登校児童生徒に見られる傾向とその支援」



講師の榎本氏は、のぞみ教室で出会った子どもたちの事例を交え、なぜ学校に行けなくなったのか、彼らはどんな思いでのぞみ教室に来ているのかをお話してくださいました。

◇ グループ別協議

不登校の未然防止や個に応じた支援等の取組について
【4グループに分かれての情報交換】



講話のまとめ



不登校の要因

- ・発達障害等の特性により、集団生活になじめない。
- ・学力不振による不安や周りの期待に応えられない苦しさを強く感じている。
- ・些細なトラブルへの対処がうまくできず、友人関係の修復に苦しんでいる。
- ・家庭環境に課題があり、心の安定が得られない。

先生方に伝えたいこと

- ・子どもはみんな成長したいと願っています。
- ・不登校の子どもは、怠けているわけではありません。
- ・立ち止まっている子は、心に力をためる時間が必要です。
- ・力がたまるまで、息長く見守り、支援をしてください。



不登校児童生徒を出さないために

- ・子ども一人一人をよく把握し、教育的及び合理的配慮のある指導・支援をしてください。
- ・担任だけでなく、学校全体で不登校対策をしましょう。
- ・保護者の心のケア&保護者とつながりましょう。
- ・「子どもは一生懸命勉強するのが当たり前、頑張るのは当然」と考えがちな、教員の意識を変えましょう。

感想

温かいことば一つ一つに、子どもたちに関わってきた重みがあって、大変勉強になりました。

グループでの共有では大変参考になる意見ばかりで、学校で実践してみたいと思いました。

とても具体的に実態や子どもたちの抱えている想いを教えていただき、大変参考になりました。これをぜひ校内にも広め、学校全体で理解し、取組の参考にさせていただきたいと思えます。

自校の児童を思いながら、お話を聞かせていただきました。事例をもとに、その子にとって何が必要かどのように寄り添うことが必要かを改めて考えることができました。

研究所より

不登校対策研修会には、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございました。榎本先生の講話の内容については、一部しか掲載できておりませんので、ぜひ校内研等で情報共有し、子どもたちのために「チーム学校」として取り組んでいただければと思います。研究所も支援できればと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

いの町教育研究所

TEL;088-893-1922(いの町教育委員会内) 088-893-0255(資料センター)